

一問一答方式による

本会議場は耐震工事中につき、
9月定例会は、議員全員協議会室で行いました。

一般質問

原発事故による対応



酒井 信幸

問 なぜ、放射能に関する講演会の講師に川島隆太教授を選んだのか。

市長 放射線医学と核医学の臨床医もなさっており、放射線防御の専門家であること、市民に分かりやすく説明していただける方なので依頼しました。

問 川島先生と別な考えを持つ講師の講演会を開催する考えはあるのか。

市長 現時点では、あらためて講演会を開く必要はないと思っています。

測定場所を増やして

問 放射線量の測定場所を増やすことはできないのか。

市長 少しでも数値が大きく動いた場合や新しい情報が入れば、測定場所を増やす対応をしたいと思っています。

問 学校給食に使用する食材の放射能検査を行っているのか。

教育長 検査はしていませんが、安全・安心確保のため、県の検査結果を基に安全な食材を使用しています。

問 浄水場の汚泥から基準を超える放射性セシウムが検出されたが、飲料水は安全なのか。

水道事業所長 放射性物質のヨウ素、セシウムは一切検出されていません。安全な水を市民の皆さまに提供しています。

多重防御



渡辺 真多

問 多重防御という考え方は、市も県も国も同じ方向を向いてきたと認識しているかどうか。

市長 おっしゃる通りだと思います。

広域連携で計画推進

問 今回の震災は、宮城だけでなく岩手、福島、茨城と広範囲に渡っている。広い範囲でスピードを持つ



津波で破壊された防波堤

てこの計画を進めなければならぬ。ばらばらにやってはスピードは上がってこない。計画は、集団移転や農業振興などを決めていく根幹になるものだと思う。ほかの自治体と連携するなど、どのような形でやっていくのか。

市長 大切な視点は広域的な連携であり、国、県の力をそれぞれ発揮していただかなければなりません。我々は、岩沼の計画を具現化することに全力を挙げていきます。

問 多重防御の考えを出した市として、県や仙台市を説得し、オール宮城に誘導していただきたいがどうか。

市長 岩沼をしつかり守る上で、境界線が不連続では全然防御になりません。し

っかりできるように県に要望していきます。

教育と子育て



長田 雅裕

問 大震災が子どもたちと与えた影響は大きかったと思う。子どもたちに変化はあったか。

教育長 未曾有の大震災により、玉浦地区では、家族、仕事、失う状況の中で、大きな変化がありました。早く笑顔を取り戻せるように、心のケアを中心に学校全体の総合力で取り組むことが使命と考えています。現在は、当初と比べてだいぶ落ち着いてきました。

今後の教育の在り方

問 これからの教育に対する所見を伺う。

教育長 今回の震災でたくさんの方の教訓を得ました。1点目は、災害はすぐにでもやってくるという危機意識を持つことが大切だと考え